

# あいち多文化共生センター相談概況



「あいち多文化共生センター」は、法務省が整備・運営の支援を進めている、外国人住民からの生活全般に係る情報提供や相談に多言語で対応する一元的相談窓口として、2019年4月に発足しました。

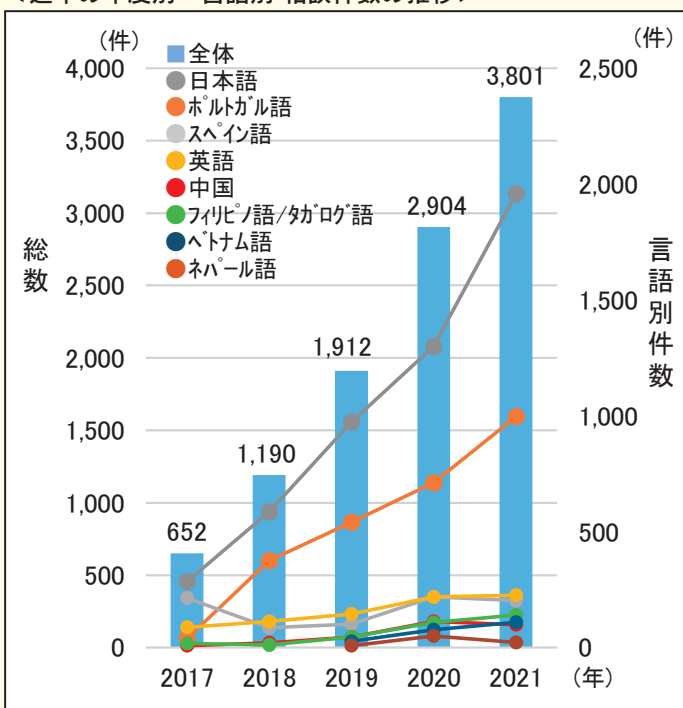
外国人住民数の増加及び国籍の多様化に伴い、あいち多文化共生センターに寄せられる相談も増加傾向にあります。ここでは、過去5年の相談件数を振り返りながら、相談の概況について紹介します。

2017年までは、年間約600件から800件であった相談件数が、2018年度を境に増加傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の世界的流行が始まった2020年度は、年間相談件数が2,904件と大幅に増加しました。コロナウイルス関連の相談が全体の約30%を占めたことが、この年の大きな特徴です。コロナウイルスの感染やワクチン接種に関することはもちろん、コロナウイルスの影響で解雇をされたり、住居を失ったり、またそれに付随する休業支援金・給付金をはじめとした支援制度の申請に関すること、国境が閉鎖されたことによる帰国困難や在留手続きに関する相談も多く寄せられました。コロナウイルス関連の特例制度が次々と出される中、センターでの対面相談が中止になったり、日によっては多文化ソーシャルワーカーの一部が在宅ワークになったりし、手探りで相談に対応していました。

そして、2021年度の年間相談件数は3,801件と更に増加しました。そのうち、コロナウイルス関連の相談も引き続き多くあり、全体の約24%でした。コロナ以外では、労働トラブル、離婚やDV、在留手続き、外国からの子の呼び寄せ、日本語学習に関することなど、多岐にわたって相談がありました。

また、ロシアのウクライナ侵攻により、ウクライナからの避難民が愛知県にも来県され、避難民からの生活に関する相談や、支援に関する相談なども寄せられるようになりました。

＜近年の年度別・言語別 相談件数の推移＞



▲あいち多文化共生センター

あいち多文化共生センターでの多文化ソーシャルワーカーによる相談・情報提供の対応日時は、以下のとおりです。お近くにお困りの外国の方がいらっしゃいましたら、ご相談いただくようご案内ください。みなさんが、安心して生活できるように、多文化ソーシャルワーカーを始め、職員一丸となって対応していきますので、お気軽にご連絡ください。

また、より専門的な相談をご希望の外国人の方は、弁護士相談及び専門相談（在留関係、労働関係、消費生活関係）をご利用ください。詳しくは、当協会のウェブサイトをご確認ください。

### あいち多文化共生センターの対応日時及び対応言語

言語：ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語、フィリピン語/タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語、韓国語、ミャンマー語、ロシア語、ウクライナ語、日本語（14言語）

日時：月曜日～土曜日 10:00～18:00（ウクライナ語は原則、月曜日及び木曜日）

※祝日及び年末年始（12/29～1/3）を除く

問合先：交流共生課 相談担当 電話：052-961-7902

E-mail: [sodan@aia.pref.aichi.jp](mailto:sodan@aia.pref.aichi.jp)

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/sodancorner.html>

### ＜あいち多文化共生センターからのお知らせ＞

センターでは、行政機関や市町国際交流協会、諸機関で外国人の相談に対応する相談員向けの「相談員のための多文化ハンドブック」と、地域で暮らす外国人住民向けの生活情報冊子「愛知生活便利帳」を発行しています。いずれも以下のアドレスからダウンロードが可能です。ぜひご活用ください。

#### ▼相談員のための多文化ハンドブック

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/manual/manual.html>



#### ▲愛知生活便利帳

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/benricho/index.html>

## 令和4年度「実践!やさしい日本語講座」を開催しました ▶▶

今年度も愛知県立大学の東弘子教授に講師をお願いし、6月から7月にかけて3日間、6講座を開催しました。行政職員やボランティア、一般企業の方まで幅広い業種の方々32人にご参加いただきました。

今回、東先生には台湾からオンラインでお話しいただき、先生が外国人として現地でコミュニケーションに困った体験もうかがうことができました。また今回の講座では、愛知県立大学客員共同研究員の米勢治子氏のご協力もあり、地域日本語教育に長年携わった立場からのコメントをいただくことができました。



▲講師の東弘子先生

愛知県の外国人住民数は26万人を超え、出身地も多様化しています。母語が英語という方ばかりではありません。身近に外国の方が増え、言葉の問題をどうするのかという課題がある中、コミュニケーションを取るために「やさしい日本語」がなぜ必要なのか、具体的な事例をまじえながら、そのコツとポイントを話していただきました。

講座は、講義とグループワーク、受講者からの質問に答える形で行われました。

相手とコミュニケーションを取る時、自分の知っていること、言いたいことをあれこれと伝えたくなり、たくさん詰め込む傾向にあります。

外国人へわかりやすく伝えるためには、目的は何か、どのように言えばいいのか、重要な情報に優先順位を付けることや、相手の表情を見て寄り添う気持ちで、相手が本当に必要としていることを引き出すことが大切だと学びました。

東先生が、日本語をやさしい日本語に変換するという方法よりも、「やさしい日本語」の在り方、考え方を通しているいろいろな人が歩み寄り、共に気持ちよく生きる社会を作っていくことを考える気づきになれば、とおっしゃっていたことが大変印象に残りました。

受講者の方々からは、「多くのことが学べた」、「もっと勉強したい」といった声があがっていました。

外国人とのコミュニケーションは、やさしい日本語だけでは解決しない課題もあります。やさしい日本語だけで伝えようとして失敗したとしても、それでやさしい日本語が100%駄目だということではなく、どうしたら相手に伝わるのかを考えながら、やさしい日本語も1つの手段として、今後も生かしていきたいと思えます。

### 第3講「やさしい日本語」対面伝達の事例 ⑥

#### ✓静岡編の動画 基本

- ①文を短く
- ②単語を簡単に
- ③大切なことが伝わる(細かいことは気にしない)

#### ✓さらに言い方のポイント「ハサミの法則」

- ・はっきり言う
- ・さいごまで言う
- ・みじかく言う 吉開章2020『入門・やさしい日本語』アスク出版

# ワールド・コラボ・フェスタ 2022 に遊びに来ませんか? ▶▶▶▶



▲会場の様子 (2018)



▲日本ウクライナ文化協会のパフォーマンス (2018)

10月22日(土)・23日(日)に、栄のオアシス21でワールド・コラボ・フェスタを開催します!今年で19回目になるこのイベントは、3年ぶりにオアシス21で開催できることとなりました。

この地域で国際交流・国際協力・多文化共生・SDGsに関する活動をしているNGOやNPO、政府機関や企業が集まって作りあげる中部地区最大級の国際イベントです。

フェスタでは、世界の歌、ダンスや演奏、トークなどのパフォーマンスが繰り広げられる「ワールドステージ」、地域で活動する団体がそれぞれのブースで活動を紹介するための展示やワークショップを展開する「コラボ広場」など、国籍や世代を超えて楽しめる多彩なプログラムをご用意しています!海外のお菓子や小物などの物品販売を行う団体もあり、見どころがたくさんあります。各ブースではクイズを用意しており、楽しく回って、スタンプを集めると、抽選に参加できます。最終日のフィナーレには、ちょっとリッチな賞品が当たる、抽選会も設けていますので、お楽しみに♪

わたしたち(公財)愛知県国際交流協会は、毎年いろいろな国を取り上げて紹介していますが、今年は「特定非営利活動法人日本ウクライナ文化協会」のご協力により、ウクライナを紹介するステージ出演やブース出展を行います。

ステージでは、愛知県在住のウクライナの方々に、色とりどりの刺繍が美しい民族衣装を着て、伝統の歌やダンスなどのパフォーマンスを披露していただく予定です。

ブースでは、ウクライナのユネスコ無形文化遺産「ペトリキウカ塗り」の塗り絵に挑戦できるワークショップや、手作りの小物の販売を予定しています。また、ウクライナの魅力が一目でわかる展示にも力を入れておりますので、ご興味がある方はぜひいらしてくださいね!

子どもから大人までみんなで楽しめるイベントです♪お誘いあわせの上、ぜひお越しください!!

★詳しくは、こちら→ <http://www.world-collabo.jp/>



図書コーナーからのお知らせ .....

あいち国際プラザ2階図書コーナーでは、国際交流や日本語教育等に関する本が2万1千冊以上揃っております。閲覧・貸出ができますので、ぜひご利用ください。

《おすすめの一冊》

『サトコとナダ』 作者：ユベチカ 監修：西森マリー

アメリカに留学したサトコはサウジアラビア出身のナダとルームシェアをすることになり、サトコは文化の違いに驚きながらも、ナダと親友になっていきます。読み進めるうちに読者もイスラム教徒について学べます。本作は、作者のユベチカ先生が留学した際、自分が今まで間違っていたイスラム教徒のイメージを持っていたことに気づき、そんな思いをマンガに描いたものだそうです。日本人が海外で生活した際の「あるある」も勉強になります。本作は、『このマンガがすごい! 2018』オンナ編第3位に選ばれています。

